

# ある resonant な半線型楕円型方程式に対する Palais-Smale 列について

数学専攻 荻原 洋介

非線型項が one-side bounded かつ resonant な半線型楕円型方程式の弱解, および古典解の存在性は, Kannan-Ortega[1] や Goncalves-Santos[2] によって, 非線型項がある性質を満たす場合に示されている. しかし, [1] の証明は,  $L^p$  理論や写像度を用いており, 変分法的ではない. そこで, この種の問題を変分法的観点から研究した. 考察対象の問題は次のものである.

$$\begin{cases} \Delta u + \lambda_1 u = g(u) & \text{in } \Omega \\ u = 0 & \text{on } \partial\Omega \end{cases} \quad (1)$$

ここで,  $\Omega$  は滑らかな境界をもつ  $\mathbb{R}^n (n \geq 1)$  の有界領域,  $\lambda_1$  は斉次 Dirichlet 境界条件のもとでの  $-\Delta$  の第一固有値,  $g$  は  $g_1(s) := \beta|s|^\sigma$  (ただし,  $\beta$  は正の数で,  $n = 1, 2$  なら  $1 < \sigma < \infty$ ,  $n \geq 3$  なら  $1 < \sigma < \frac{n+2}{n-2}$  とする) と定め,  $g_2$  は  $\text{supp } g_2$  が有界で,  $g_2(0) = 0$ ,  $g_2'(0) = 0$  な  $\mathbb{R}$  での連続関数とするとき,

$$\begin{cases} g_1(s) := \beta|s|^\sigma = g(s_-) \\ g_2(s) := g(s_+) \end{cases}$$

とおき,

$$g(s) := g_1(s) + g_2(s)$$

としたものである.

方程式 (1) 式を変分法的に扱うということは,  $G(s) := \int_0^s g(t)dt$  ( $\forall s \in \mathbb{R}$ ) とし,  $H_0^1(\Omega)$  上の汎関数  $I(u) := \frac{1}{2} \int_\Omega |\nabla u|^2 dx - \frac{\lambda_1}{2} \int_\Omega u^2 dx + \int_\Omega G(u) dx$  の臨界点を調べることである. この汎関数  $I$  は Palais-Smale 条件を満たしていない. しかし, Palais-Smale 列を詳しく解析することにより, その挙動についていくつかの結果が得られた. 得られた結果は以下のとおりである.

定理 1 汎関数  $I$  に対する  $\lim_{n \rightarrow \infty} \|u_n\|_{H_0^1(\Omega)} = \infty$  な (PS) 列  $\{u_n\}_n$  は, 正規化することにより  $\lambda_1$  に対応する正の固有関数  $\varphi_1$  に  $H_0^1(\Omega)$  で強収束する.

定理 2 空間次元が 1 のとき,  $1 < \sigma < 5$ ,  $c < \max G_2 \times |\Omega|$  とすれば, 汎関数  $I$  に対する (PS) $_c$  列は  $H_0^1(\Omega)$  で有界で, 部分列をとることで方程式 (1) 式の弱解に弱収束する.

ここで,  $G_2(s) := \int_0^s g_2(t)dt$  ( $\forall s \in \mathbb{R}$ ) とする.

## 参考文献

- [1] R. Kannan, R.Ortega, *Landesman-Lazer conditions for problems with "one-side unbounded" nonlinearities*, *Nonlinear Anal.*,9(1985), 1313-1317.
- [2] J.V.Goncalves, C.A.Santos, *Some remarks on semilinear resonant elliptic problems*, *Progress in Nonlinear Differential Equations and Their Applications*, vol. 66(2005), 313-320.